

Vision

今を生きるわたしたちと
まだ見ぬ子どもたちが
希望と手をつないで歩める社会。
さあ、心躍る未来へ。

Mission

事業をつくり、しくみを変え、文化を生み出し、
ともに「新しいあたりまえ」を未来に手渡そう。

本冊子の制作および印刷費用の一部を、大希企画株式会社様より
ご支援をいただき作成いたしました。親子の笑顔を支える活動へ
の温かいご理解に、深く感謝申し上げます。

こどもたちのために、日本を変える

Florence

認定 NPO 法人フローレンス

代表理事 赤坂 緑

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目14-1 KDX 神保町ビル 4F
TEL 03-6811-0903 FAX 03-6811-0902 <https://florence.or.jp/>

2004年 特定非営利活動法人内閣府認証取得
2012年 東京都より認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）取得
2026年 スタッフ（事務局・支援スタッフ他）合計 721 名（4 月現在）

関連団体

- 医療法人社団マーガレット フローレンス子ども心クリニック
- 一般社団法人 子ども宅食応援団

受賞歴

- 2025 年 ウェルビーイングアワード モノ・サービス部門グランプリ受賞（子ども冒険バンク）
- 2025 年 JACE イベントアワード 学生・NPO・各種団体・個人部門ゴールド賞受賞（パラ e スポーツ・フェスタ）
- 2025 年 総務アワード2025ファイナリスト（障害者雇用の取り組み）
- 2026 年 キャリアオーナーシップ経営 AWARD2026 優秀賞受賞（人事制度、組織開発）

皆さんの継続的なご寄付が
こどもたちの未来をつくれます

フローレンス 寄付

🔍 検索

わたしたちの活動はご支援くださる皆様のご寄付
によって支えられています。詳細は、右記の二次元
コードをご確認ください。



<https://florence.or.jp/donate/#howto>

寄付額最大約 5 割が戻ってきます

フローレンスは東京都の認定を受けた、認定 NPO 法人です。
ご支援くださる皆さんは、所得税、法人税、相続税などの税
制上の優遇措置を受けることができます。

ANNUAL REPORT 2025

2025年度活動報告

みんなで紡ぐ、心躍る未来



こどもたちのために、日本を変える

Florence

TOP MESSAGE

あなたとともに、一歩ずつ。 こどもたちの笑顔が続く社会へ



副代表理事
黒木 健太

代表理事
赤坂 緑

副代表理事
杉山 富美子

こどもたちのために、日本を変える
Florence

フローレンスの代表に就任して3年。副代表の杉山・黒木とともに、大人もこどもたちも「希望と手をつないで歩める社会」の実現に向けて走り続けてきました。この歩みを支えてくださったのは、時に温かく、時に厳しくわたしたちを鼓舞してくださる皆さんの存在です。心より感謝申し上げます。

この3年間、日本はパンデミックの混乱から、物価高騰という新たな不安の波に飲み込まれました。生活の基盤が揺らぐ中で、家庭の孤立が生み出す「見えない貧困」が広がり、こどもたちの食が脅かされています。さらには、こどもたちの自己肯定感につながる「体験機会」の格差が浮き彫りになるなど、こどもたちの未来に深刻な影を落としています。

2025年、フローレンスの原点である「病児保育」は20周年を迎えました。親子のピンチに寄り添い続けたこの20年は、同時に、さまざまな事業を生み出すことによって「子育てを社会で支える」という意識を日本に根付かせるフローレンスの挑戦の歴史でもありました。

個人の努力だけでは抗えない困難が、今も誰かを苦しめています。だからこそ、わたしたちは小さな声に耳を澄ませ、仕組みを整え、制度に働きかける歩みを止めません。皆さんとともになら、社会はたとえ一ミリずつでも、確実に変えていける。その確信を胸に、わたしたちはこれからも社会をより善くしていくための歩みを、誠実に一歩ずつ進めてまいります。

認定 NPO 法人フローレンス 代表理事

赤坂 緑

2025年度のフローレンスの活動 PICK UP

4月

「無料産院」提携病院が和歌山にも拡大

経済的・社会的に困難を抱えた未受診妊婦を支援する「無料産院」事業において、和歌山県の「はまだ産婦人科」と新たに提携。安心して出産できる環境を提供



7月

全国約1.2万世帯へ備蓄米を配布

米価高騰の煽りを受けた子育て世帯へ、(一社)こども宅食応援団などと連携し政府備蓄米と食品を緊急配送するとともに、政府や企業に継続的なサポートを求める記者会見を実施



8月

パラeスポーツ・フェスタ2025開催

わずかな力でも押せるスイッチやレバー、視線入力装置などを用いて、大人もこどもも、障害の有無にかかわらず楽しめるeスポーツイベントを開催



9月

「医療的ケア児保育」まなびば オープン

保育園などで医療的ケア児保育に携わる保育士・看護師・自治体職員などの支援者がつながり、学び合えるオンラインコミュニティを開設



10月

こども誰でも通園制度 全国調査を実施

こども誰でも通園制度に関する全国アンケートを実施。現場のニーズと課題を明らかにし、全国小規模保育協議会を通じて、国の検討会にて制度の改善を提言



12月

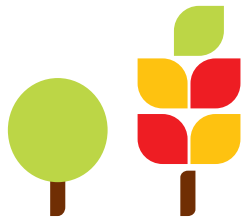
ひとり親家庭へクリスマス特別配送

病児保育「寄付によるひとり親支援プラン」利用者を対象とした物品支援を実施。企業から提供された食品や日用品、クリスマスのお菓子などを157家庭に配送





フローレンスの病児保育は
2025年で20周年を迎えました。



「助けて」を言える社会へ——病児保育15万件が変えた、子育ての景色

病児保育事業部のマネージャーとしてこの20年を振り返って思うのは、わたしたちの病児保育の歴史は、そのままフローレンスの歴史でもあるということです。「こどもが熱を出して会社を休んだら、クビになった」そんな、一人の母親の声からすべては始まりました。

「場所がないなら、家へ行く」 ——逆転の発想から生まれた仕組み

20年前、病児保育室は今よりもずっと少なく、予約は激戦。体調の悪いこどもを抱えて保育室まで連れて行くのも、親子にとって大きな壁でした。そこで「場所がないなら、自分たちが家へ行けばいい」と、2005年に訪問型の病児保育を開始しました。安定した運営を図るため、当時としては珍しい「共済型（月会費制）」を導入し、シッターを正社員で雇用。お子さんの変化を見逃さないよう、徹底した研修を行う体制を整えました。

共感と保育の質が支えた20年

当時は、「訪問型・共済型」も「シッターの正社員雇用」も一般的ではなく、「本当にできるの？」という声もありました。それでも、「子育てを社会で支える一歩にするんだ」という志

を信じ、ともに飛び込んでくれた人たちがいたからこそ、今日まで走り続けてこられました。親子のピンチに駆けつけるシッターを、フローレンスでは誇りを持って「おやこレスキュー隊員」と呼んでいます。

もう一つの「手」として。 寄付でつないだ、ひとり親支援の輪

「しんどい場面が多い人にこそ、二つ目の『手』を届けたい」。その思いから、2008年に利用しやすい価格で病児保育を提供する「寄付によるひとり親支援プラン」を開始。ある時、生計を立てるために看護師資格の取得を目指していたひとり親支援プラン利用者の方から、「国家試験当日の発熱をフローレンスに救われ、合格できました。おかげで新たな一歩を踏み出せました」とお手紙をいただいたんです。その時、この事業は単なる保育ではなく、誰かの人生を支えるインフラなのだ確信しました。

15万件のお預かりが変えた、社会の景色

20年前、母親が頭を下げ、謝りながら看病のために仕事を休むのは「あたりまえ」の景色でした。しかし、お子さんのお預

かり件数が15万件に達した今では、自治体の助成制度も普及し、病児保育は「特別な時に使うもの」から「働くための準備」へと変化しました。忙しい子育てで家庭が、食洗機や洗濯乾燥機と同じように、あたりまえに頼っていいもの。そんなふうに、心理的ハードルが下がってきたことを実感しています。

わたしたちの挑戦は、まだまだ続きます

挑戦の一つ目は、「病児保育をさらに社会に根付かせること」。利用できるエリアを拡大したり、法人プランの採択企業を増やしたりすることによって、働く環境そのものを変えていきたいです。二つ目が「ひとり親支援プランの拡充」。まだ利用できてない人に知ってもらい、さらにひとり親の方が利用しやすいプランへ進化させていきます。最後に、「医療的ケア児への展開」。保育園に通う医療的ケア児のご家庭にも、病児保育の選択肢があっている。どんな境遇のお子さんでも、病気の時に安心して過ごせる社会を目指し、今まさに挑戦を始めています。

「助けて」と言える世の中、自分だけで頑張らなくていい社会。わたしたちはこれからも、皆さんと一緒に「新しいあたりまえ」をつくり続けていきたい。次の20年も、ピンチの時には誰かがそばにいられるように。



病児保育事業部マネージャー
宇野澤 ちはる



病児保育と関わった人々の声



木場 直子
おやこレスキュー隊員
(病児保育スタッフ)

子育てを応援する気持ちを忘れない

病児保育は、安心・安全・信頼は最重要。また、体調を崩したお子さんはもちろん、親御さんにも必ず寄り添うことを心がけています。自分も子育て経験があるから大変さが分かるんです。親御さんを応援する気持ちは絶対忘れないでいたいと思っています。



小野さん
ひとり親支援プラン利用者
(お子さん2歳)

子育てに必要な不可欠なライフライン

病気のこどもを見ながら仕事するのはちょっと無理だなと思い、フローレンスの病児保育「寄付によるひとり親支援プラン」を利用し始めました。保育記録を見返すと、わたし一人で子育てしてるわけじゃないと思っています。今は必要不可欠、ライフライン的な存在です。

病児保育20年の歩み





フローレンスの取り組み

たった一人の声から始まったフローレンスの取り組み。
2025年も活動の輪は広がり続けています。



3つの柱が、今ある安心を守り、未来のあたりまえをつくる

フローレンスの活動は、主に「事業収入」「公的な補助金」「皆さんからの寄付」という3つの収入源で成り立っています。
その中でも、まだ公的な支援が届かない親子に寄り添い、
こどもたちが希望を持てる未来をつくっていく活動の原動力となるのが「皆さんからの寄付」です。

病児保育事業／
寄付によるひとり親支援／
多胎児家庭支援



DATA

事業開始からの
病児保育 お預かり件数
約15万件
(2026年3月末まで)

ひとり親家庭への
病児保育 お預かり人数
のべ2,099名
(2026年3月末まで)

「フローレンスの
ふたご助っ人くじ」
累計サポート件数
8,087件
(2026年3月末まで)



支援活動

- 病児保育
親御さんに代わって熱や体調不良のお子さんを自宅で保育する
- ひとり親支援
寄付により、ひとり親家庭への病児保育を低価格で提供する
- 多胎児家庭支援
多胎児家庭専門の訪問サポートサービス。親御さんと共同保育を行う

おやこレスキュー隊員の
存在が、心の支えに

「寄付によるひとり親支援プラン」を利用しました。こどもが風邪をひいても仕事を休めずに不安な中、おやこレスキュー隊員さんのプロフェッショナルな対応に支えていただき、安堵の気持ちで何度も涙したことがあります。いつも本当に助けられております。ありがとうございます。

インフルエンザの流行下でも 多くの親子を支えた病児保育事業

2025年度は、例年より早い10月からインフルエンザの流行期に入りました。一度は流行発生警報が解除されたものの、2026年2月に再び警報基準を超えました。1シーズンに二度も警報基準を超えるという現行の統計が始まって以来の事態となる中でも親子のピンチに駆けつけ続け、仕事と子育ての両立を支えました。また、2022年4月に開始した多胎児家庭を支援する「フローレンスのふたご助っ人くじ」の年間サポート件数は2,741件となり、都内20自治体へ広がりました。

今後も、5年ぶりの提供エリア拡大(2026年4月実施／1都3県[34市23区]へ展開)を皮切りに、わたしたちは働き方や病児保育のニーズの変容に合わせ、さらなる事業と支援内容の充実に尽力します。

寄付によるひとり親支援



病児保育「寄付によるひとり親支援プラン」では、ひとり親家庭のお預かり人数が、のべ2,099名となりました。また、2025年度も「クリスマス特別配送」を実施し、「ひとり親家庭 応援アクション企業」20社の協賛により、食品や日用品、クリスマスのお菓子・おもちゃ、ランドセルなど多くのプレゼントをお届けしました。

みらいの保育園事業



支援活動

- 小規模認可保育所
待機児童問題の解決を目指して生まれた「おうち保育園」
- 認可保育所
こどもたち自身で未来をつくる力を育む「みんなの未来をつくる保育園」
- 一時保育室
一時的にお子さんを預かり育児をサポート

DATA

2025年度の運営園
10園

こどもインターン
受け入れ日数
108日
(9園合計 ※東京都内の運営園)

専門性のあるスタッフの
おかげで安心感がありました

自宅に保育士などの専門性のあるスタッフが訪問してくれて、お話しできるので安心感がありました。親族や友人以外の第三者からのお話や客観的に意見いただけることは良い機会になりました。(産後家庭への訪問型支援利用者)

最初はこどもたちとうまく関われるか不安でしたが、こどもたちから笑顔で話しかけてくれてうれしかったです。一緒に遊んだり、お世話をしたりする中で、保育士さんの仕事の大変さとやりがいを強く感じました。(「こどもインターン」参加者)

国の認可事業として10年の節目。 保育園は地域の社会資源へ

「おうち保育園」が国の認可を受け「小規模認可保育所」として歩み始めてから10年目の年となりました。待機児童対策のみならず地域の社会資源としての役割が広がる中、「保育園こども食堂」の定期的な開催や、医療的ケア児の受け入れを実施。2025年は、新たに地域の産後家庭への訪問型支援にも取り組みました。また保育事業を担う次世代を育成するために、小中高生による保育ボランティア「こどもインターン」を運営園で受け入れるとともに、日本の保育を発信するイベント「J-HOIKU2025」では園長自らが登壇し保育の仕事やシチズンシップ保育の魅力を発信しています。

今後も、地域で「すべてのこども」に開かれた保育園モデルの実践やインクルーシブ保育を推進していきます。



障害児保育・ 家庭支援事業

DATA

お預かりした障害児・
医療的ケア児の人数
のべ485名
(2025年度までのヘレン、アニー、
ナンシー東京・仙台利用者の累計)



地域での家庭支援とともに デジタルでの相談支援や支援者同士を つなぐサービスを展開

2025年度も、「障害児保育園ヘレン」「障害児訪問保育アニー」「医療的ケアシッター ナンシー」を通じて、医療的ケア児・障害児の保育・家庭支援を行いました。また、LINEを活用した専門職による個別相談サービス「匡ケア児おやこよりそいチャット」の対象エリアを拡大し、2026年3月末までにのべ281名が利用登録をしました。さらに、医療的ケア児の入園を進める地域の保育園を支える取り組みとして、保育士や看護師などの支援者同士が学び合うオンラインコミュニティ「『医療的ケア児保育』まなびば」の運営を開始し、2026年3月末時点で44名がコミュニティに参加。

これからも地域やデジタルでの支援で家庭に伴走しながら、これまで培ったノウハウを全国に積極的に広める活動に力を入れていきます。

医療的ケアが必要なこもとの生活は、喜びもたくさんある一方で、親がつきっきりになることも多く、なかなか自分やきょうだい児との時間を持てないことがあります。安心してこどもを任せられる場所があることで、とても助けられています。同じような状況にあるご家庭も、もし迷っていたらぜひ一度ナンシーを利用してほしいです。

支援活動

- 障害児保育・家庭支援
保育や家庭支援を通じて、お子さんの成長を促すとともに保護者の就労の支援や休息の提供をする
- 遊び・交流の場づくり
障害の有無に関係なくやりたいことにチャレンジしたり、家族同士が交流する場を提供する

少し休んでいいんだ、
と感ぜられました

仙台支社

DATA

2025年度の運営園

2園



支援活動

● 小規模保育所

仙台市認可園と自治体に縛られない企業主導型の2園で地域の親子を支える

● 障害児家庭支援

医療的ケア児家庭に看護師が訪問し直接支援を行う「仙台ナンシー」

● 政策提言

宮城県や仙台市に対して医療的ケア児・障害児家庭のため支援拡大を訴える活動をしている



寄付を活用

インクルーシブ・テック

障害の有無にかかわらず一緒に過ごすことがあたりまえの社会を目指して、わずかな力でも押しやすいスイッチやレバーなど、障害のある人の思いやアイデアの表出をサポートする「インクルーシブ・テック」の普及活動を行っています。2025年8月にはゲームでインクルーシブ・テックを体験する「パラeスポーツ・フェスタ」を開催しました。



☞ こどもが毎日の通園を楽しみにしています ☺

利用者の声 一卵性双生児のこどもがいます。弟の方は、医療的ケアを行いつつ生活をしているため、自治体の制度上、認可保育園の利用が難しい状況でした。「おうち保育園かしわざ」への通園が実現したことで、今では友達や先生と一緒に遊んだことを毎日楽しそうに話してくれます。医療的ケア児であっても地域の中で暮らし、地域の保育につながり、同年代のこどもたちと一緒に育つ機会があってほしいと思います。

医療的ケア児・障害児家庭の孤立解消と制度の課題に向き合う

「おうち保育園かしわざ（企業主導型保育事業）」では、認可保育園でのお預かりが難しい障害のあるお子さんの受け入れを行っており、2025年には初めて医療的ケア児のお預かりを実施しました。また、フローレンス仙台支社では「まごらいんキャンペーン」を通じ、映画会、インクルーシブ遠足、医ケア児おやこ給食便などの施策に取り組み、医療的ケア児・障害児家庭の孤立解消と社会の認知拡大を目指しています。本活動は「テーマ型募金みやぎチャレンジプロジェクト」に採択され、赤い羽根共同募金にて支援いただいています。また、宮城県内の家庭を対象としてアンケート調査を実施し、介助を行う家族が休息するための「在宅レスパイト」制度が十分に行き届いていない実態を明らかにしました。

今後も医療的ケア児が地域の中で育つ機会が保障されるよう、保育の受け入れに関する制度の見直しを求めて、仙台市に要望書を提出するなどの活動をしていきます。

こども宅食／ハイブリッドソーシャルワーク事業



寄付を活用



☞ こども宅食が唯一の楽しみです ☺

DATA

特別養子縁組で支援した親子

のべ51件

(2026年3月末まで)



寄付を活用

にんしん相談／赤ちゃん縁組事業

☞ すてきなご縁に恵まれてよかったです ☺

支援活動

● にんしん相談

予期せぬ妊娠に悩む方への専門相談員による相談支援

● 赤ちゃん縁組事業

「生んでも育てられない」と悩む女性と、こどもを迎え入れ育てたいと願う夫婦をつなぎ、赤ちゃんが温かい家庭で愛情を受けながら育つことを支える取り組み

● 育ての親へのサポート

特別養子縁組を希望する方への研修・カウンセリングおよび委託後のアフターフォロー

利用者の声 生まれた時は頭も体も小さくて、それだけが心配でしたが、写真を見た時に、しっかりと育ててもらって幸せに暮らしていることが伝わりました。日常生活の中で赤ちゃんを見かけると、「養子縁組という選択は正解だったのか」と自問することもあります。わたし自身の夢を必ず叶え、こどもに恥じない生き方をしていきたいと決意を新たにしています。（特別養子縁組でこどもを託した生みの親）

赤ちゃん縁組・無料産院の着実な拡充

生まれたばかりの赤ちゃんの遺棄や虐待死が続く現状を改善するため、にんしん相談や赤ちゃん縁組事業（特別養子縁組）、無料産院事業に取り組んでいます。赤ちゃん縁組事業では、総勢100名が参加した養子縁組家族交流会が寄付により実現。本音の語り合いや笑顔の交流で家族の歩みに寄り添いました。2023年6月に開始した無料産院事業では、新たに和歌山の病院との提携も開始。これまでに24組の妊婦とお腹の赤ちゃんを孤立出産から守ることができました。

今後も提携先の病院をさらに増やし、各地域で相談を受けられる体制の構築を目指して事業を拡充していきます。また、妊婦を確実に医療につなげ赤ちゃん遺棄を防ぐために、「妊娠確定診断」の無償化を求める政策提言を続けていきます。

DATA

ハイブリッドソーシャルワークの登録世帯数

約17,000世帯

(2026年3月末時点)

食支援を行った世帯

のべ26.6万世帯

(2026年3月末まで)

支援した食支援事業団体

105団体

(2025年度)

支援活動

● こども宅食・全国普及推進活動

全国のこども宅食実施団体を通じて全国規模で食支援を行う

● ハイブリッドソーシャルワーク

デジタル支援と対面支援を組み合わせたソーシャルワーク

ひとり親家庭支援のための助成事業

関東甲信越地域において、経済的困窮や孤立が懸念される子育て家庭に対し、食支援を行う105団体を、助成金を原資にサポートしました。また、1都3県で交流会を開催し、家庭への「伴走支援」をテーマに団体と自治体がノウハウを共有し、連携を深めました。



寄付を活用

こども冒険バンク

QR 博物館でいろいろな展示物に触れ、
こどもも楽しんでいました

利用者の声 博物館を訪問しました。入館料と交通費を考えると結構な出費になるので二の足を踏んでいましたが、今回チケットを提供していただけたので連れて行けました。こどももいろいろな展示物に乗ってみたい触ってみたいと、とても楽しんでいました。

こどもの体験格差解消に向け
会員数・参画企業数・提供エリアを拡大

こどもの体験格差の解消に取り組む「こども冒険バンク」は、2025年も利用会員数・参画企業数ともに拡大し、のべ11,000 枠の体験を提供した他、参画企業向けの事業報告会を開催し、連携強化にも取り組みました。また、2025年は他事業部とも連携し、障害児家庭やフローレンスのLINE 相談を利用する家庭にも体験を届けました。本事業は、保護者にとって社会とのつながりを感じられる場となり、企業にとっては自社の取り組みの価値を再認識する機会となっています。

今後は関西・中部地域を中心に提供エリアの拡大を進めるとともに、体験格差の社会課題解決に向けてマスメディアと連携し情報を発信していきます。



DATA

会員世帯数

2,073 世帯

(2026 年 3 月末時点)

体験を提供した
企業の数

48 社

(2026 年 3 月末まで)

支援活動

● こども冒険バンク

体験が不足しがちな家庭が、企業が無料で提供した体験コンテンツを自由に選び申し込みができるプラットフォーム事業

バックオフィス
(総務・法務・経理・
人事・システム)

組織を支える基盤づくりと障害者雇用の実践

総務・法務・経理・人事・システム部門などのバックオフィス業務を通じて、フローレンスで働く 700 名以上のスタッフが安心して支援や課題解決に集中できる環境を整えています。頂いた寄付がきちんと効率的に使われるように、社内全体の業務や仕組みの整備を、これまでもこれからもしっかり継続させていきます。

活動の一環として、障害者雇用にも取り組んでいます。総務チームに所属する障害者雇用チーム「オペレーションズ」は、特別支援学校からの新卒採用を続けながら 8 年間離職者ゼロを維持し、年間 1.2 万時間の事務業務を担っています。同チームは企業の総務部門が主導した取り組みを表彰する「総務アワード 2025」でファイナリストに選出されるなど社外からも評価されており、note や書籍出版などを通じて、培った知見の発信にも取り組んでいます。

「障害のある人と働くことが自然な社会」を目指し、「オペレーションズ」の業務を社外に広げることに挑戦していきます。



寄付を活用

政策提言／
ソーシャルアクション

DATA

「骨太の方針 2025」
に反映された提言

11 個

現場の声をもとに
当事者の声の可視化と政策提言を実施

フローレンスは、子育て支援事業の現場で得られる声をもとに、国や自治体への政策提言を行っています。2025 年度は、逆境的小児期体験 (ACE) に関する支援体制の整備や出産の経済的負担軽減、保育園の多機能化など 11 の提言が政策に反映されました。また、中高生を対象とした「ルールメイキング体験！ワークショップ」を計 4 校に実施し、政策提言を疑似体験する機会の提供にも取り組みました。

さらに、ソーシャルアクションとして、「虐待の世代間連鎖ゼロ」プロジェクトを通じ、こども時代に虐待を受けた親たちでも安心して子育てできる社会を目指して活動を行っています。

今後は、提言してきた「日本版 DBS」制度を含むこども性暴力防止法の施行や、「こども誰でも通園制度」がスタートしますが、これらの制度が実効性のあるものとなるよう提言を継続していきます。



関連団体との取り組み

「小学生からのピル外来」を開設したクリニックと、こどもの生理について社会的認知の拡大を目指し連携

こどもが抱える生理の痛みや不調については、医療機関に相談するという選択肢が十分に浸透していません。こうした背景のもと、2025 年 6 月、フローレンスの関連団体である「こどもと心クリニック」において、小学生から相談可能な「小学生からのピル外来 (生理外来)」が開設されました。

フローレンスでは、こどもの生理にまつわる意見を可視化することを目的に「生理のつらさや困りごと」に関するアンケートを実施。このアンケートをもとに「こどもの生理の悩みは我慢するもの」という認識を変えるため、クリニックとともにマスメディアへの発信などのソーシャルアクションにも取り組みました。



DATA

小学生からのピル外来

受診件数

のべ 128 件

(2026 年 3 月末まで)

女性のための心療内科

受診件数

のべ 2,252 件

(2026 年 3 月末まで)

不登校外来

受診件数

のべ 1,906 件

(2026 年 3 月末まで)

フローレンス
こどもと心クリニックQR 症状が改善され
こどもも安心しています

利用者の声 中学生の娘が生理痛などで生活に支障が出るようになってしまい、たまたま観た情報番組で病院のことを知り、通院に至りました。薬を処方していただき、症状もかなり改善され、また先生が親身になってくださるので、こどもも安心しているようです。

「小学生からのピル外来」を開設し、
こどもの生理について社会的認知の拡大に注力

2025 年 6 月、小学生から相談可能な「小学生からのピル外来 (生理外来)」を開設しました。ホルモン製剤や漢方薬、鎮痛剤などの選択肢を提示し、一人一人に合った診療を行っています。さらに、2017 年の開院以来、寄付を原資として、ひとり親家庭にインフルエンザワクチンをお届けしています。2025 年は 52 名に接種を行い、開院以来の累計接種回数は 328 回となりました。この取り組みに賛同し、同様のモデルでひとり親家庭に接種を行う他の医療機関も 3 院増え、地域を超えた広がりを見せています。

今後は、「女性のための心療内科」「不登校外来」「生理外来」といった各外来を必要とする方に医療の立場で支援を続けるとともに、こどもの生理に関する社会的認知の向上にも引き続き取り組んでいきます。



フローレンスに託してくれた 寄付者さんの声

遺贈・相続寄付者さんの声



生前長きにわたりフローレンスにいただいたご寄付と遺贈寄付にて 2025 年に「村上忠男基金」が設立されました。
フローレンスの行うひとり親支援事業に活用されています。

父である故村上忠男は10年以上、亡くなるまでフローレンスを応援してきました。フローレンスの取り組みの中でも、
父はとりわけ困難な状況におかれているひとり親家庭の支援を大切にしており、子どもたちが十分な教育機会や生活
のサポートを受け、明るい未来を持ち成長していくために自らの支援が使われることを期待していました。故人が大
切にしていた、「困難な状況にある親子を支援すること、子どもたちの未来を明るくする取り組みを応援すること」を、
家族としてこれからも続けていきたいと思います。

ご子息より

遺贈寄付とは

「遺贈」は、財産の全部または一部
を遺言によって無償で贈与すること
です。遺贈寄付には、この遺言によ
る寄付の他、相続財産からの寄付、
信託による寄付などがあります。



フローレンスを支えてくださった

coca

株式会社adapt retailing

ANP

安藤バラケミー株式会社

inbox

株式会社inbox

WingArc1st

ウイングアーク1st株式会社

MFS

MFSインベストメント・マネジメント株式会社

TRI-ARROW

トライアロー株式会社

ORACLE

日本オラクル株式会社

finetoday

株式会社ファイントゥデイ

BGO

ベントール・グリーンオーク株式会社

Policy Fund

株式会社 PoliPoli Policy Fund

企業×NPOが生み出す新たな社会的価値「こども冒険バンク」

新たな親子の社会課題として注目されている「こどもの体験格差」を解消するための「こどもの体験格差解消プラットフォーム」の開発
を協働で行い、運用開始からわずか2年半で11,000 枠もの体験を親子に届けることができています。

担当者の声



SUNTORY

サントリーホールディングス
株式会社
CSR推進部長
一木 典子さん

こども・若者が、自分の人生に希望を持ち幸福に生きるためには、
自然・文化・スポーツ・社会などの体験と、それらを通した多
様な人との何気ない関わりが欠かせません。こども・若者が必
要とする体験の機会を保障する仕組みづくりは簡単ではありませんが、「企業とNPO が協働するからこそ生み出せるものがある」
と信じて、フローレンスさんと挑戦できること、冒険パー
トナー企業の皆さまと共創できることに、大きな可能性を感じ
ています。



こどもたちのために、日本を変える
Florence

「こども冒険バンク」事業
マネージャー
前田 晃平

こども冒険バンクが目指すのは、こどもたちが自分自身の力で
世界を広げるきっかけをつかむ、その応援を社会全体でやって
いく仕組みづくりです。これはフローレンスだけでできること
ではありません。企業や団体など、多様なプレイヤーの参画が
必要不可欠です。こどもの「好き」という気持ちやワクワクす
る心、それこそが次の活気ある社会をつくり、切り開いていく
唯一の原動力だと信じています。



サントリー
君は未知数



企業・団体の皆さんへ



寄付のご相談・お申し込みはこちら

企業・団体（一部紹介）※五十音順・敬称略

COSTCO

コストコホールセールジャパン株式会社

公益財団法人
小林製薬青い鳥財団

公益財団法人小林製薬青い鳥財団

SystemMetrix

システムメトリックス株式会社

公益財団法人
洲崎福祉財団

公益財団法人 洲崎福祉財団

DAIKO XTECH

DAIKO XTECH 株式会社

MIDAS

公益財団法人ミダス財団

三菱食品

三菱食品株式会社
「三菱食品 これからの100年基金」

健康にアイデアを
meiji

明治ホールディングス株式会社

Euromonitor
International

Euromonitor International Limited

Universal

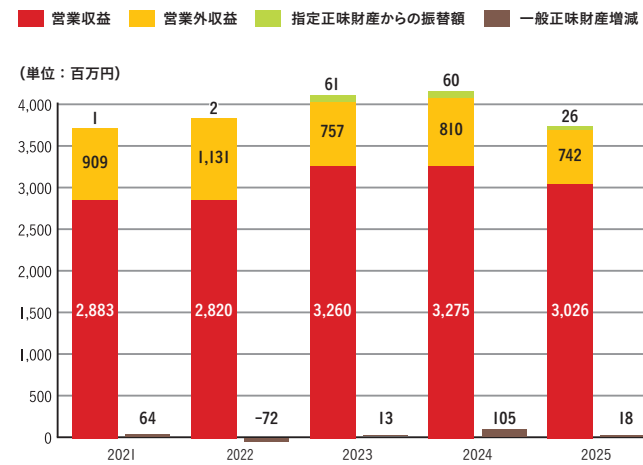
ユニバーサル株式会社

アイディール・リーダーズ株式会社 | 株式会社アイホウ | イノベシア株式会社 | 株式会社 NTT ドコモ | 株式会社エボスカード |
ステアックス株式会社 | 株式会社スパークエンターテイメント | 大和ハウス工業株式会社 | TAG クリエイト株式会社 | 株式会社探究学舎 |
株式会社 Brillar | 株式会社プロロジス | 細木数子事務所 |

株式会社きくや美粧堂 | 公益財団法人キリン福祉財団 | コンフォートフォーム株式会社 | 株式会社 JES |
TM コミュニケーションサービス株式会社 お宝エイド | 株式会社トライ・ワークス | 株式会社ビー・エス・デーインフォメーションテクノロジー |
株式会社宮城テレビ放送 | 横浜ゴム株式会社・YOKOHAMA まごころ基金 | 株式会社 Rita Brands

2025年度 財務報告

収益・一般正味財産増減額



収益増減額サマリー

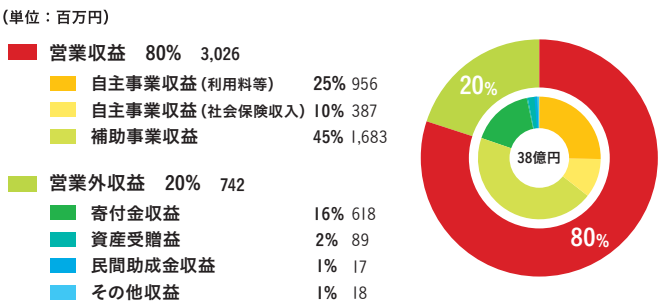
フローレンスの2025年度の総収益は37億9千4百万円で、前年比減となりました（▲3億5千万円、前年比92%）。今年度も昨年度に引き続き、食支援活動事業への補助金収入（1億6千万円）を受領し、関東甲信越地域1都9県の食支援団体105カ所への資金助成と運営サポートを行いました。

一般正味財産増減額サマリー

総費用は、36億6千2百万円（前年比91%）、一般正味財産増減額は昨年度より8千7百万円減少して1千8百万円です。

※ 昨年度まで当期の収支を明確にするため、指定正味財産からの振替額を含まない収益および正味財産額を表示しておりましたが、財務諸表の統一性の観点より、指定正味財産からの振替額を含む金額を表示いたします。

収益の内訳



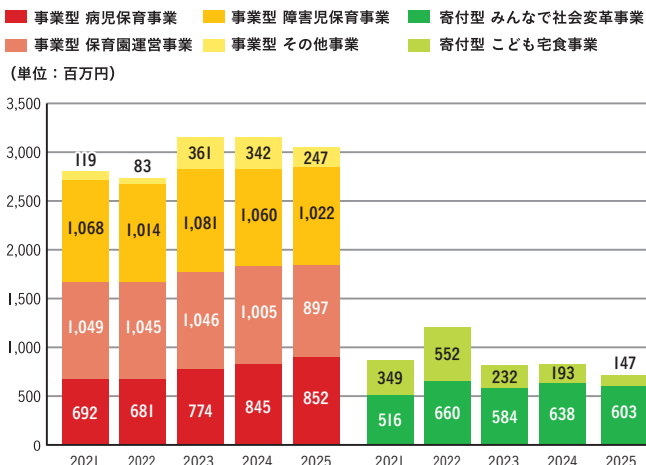
フローレンスの収益は、サービス提供からなる自主事業収益、行政受託からなる補助事業収益、寄付からなる寄付金収益からなります。

収益内訳サマリー

2025年度37億6千8百万円（指定正味財産からの振替額を含まない）のうち、地方自治体からの保育園運営および福祉事業の運営補助金が16億8千3百万円（45%）、寄付収益は6億1千8百万円（16%）でした。皆さんよりご支援いただいた寄付金は、新たな福祉サービスの開発や事業投資、政策提言活動などに使用し、社会課題解決に向けた推進の力としております。

※ 透明性向上のため、自主事業収益を利用料と社会保険収入に分けて今年度から報告しています。

事業モデル別収益



事業モデル別の収益推移サマリー

フローレンスの事業は、サービス提供による事業収益を主な原資とするモデル（事業型モデル）と、寄付収入を主な原資とするモデル（寄付型モデル）の2つの事業モデルがあります。

事業型モデル

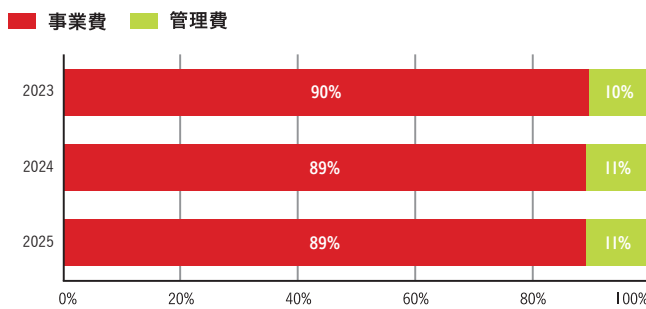
- 病児保育事業…利用会員数は減少傾向（前年比96%）でしたが、利用頻度に連動する月会費（前年比103%）および保育料（前年比108%）が増加しました。その結果、7百万円の収益増となりました（前年比101%）。
- 保育園運営事業…2024年度末に3園を事業譲渡した結果、1億8百万円の収益減となりました。

寄付型モデル

- 2024年に開始した体験格差解消に向けた「こども冒険バンク」事業では利用会員数・参画企業数ともに拡大し、のべ11,000枠の体験を提供しました。「こども冒険バンク」事業の収益（寄付金／助成金など）はみんなで社会変革事業の収益に含まれています。

※ 事業型 その他事業には、赤ちゃん縁組事業、団体支援事業が含まれます。
※ 2023年度および2024年度は「食支援活動事業の補助金収入」は「事業型 保育園運営事業」に含めておりましたが、保育園運営事業の純粋な増減を明確にするため、今年度より「事業型 その他事業」に含めて報告しています。

事業費比率



事業費比率サマリー

経常費用のうち、法人運営のための管理費を除いて社会課題解決のための事業に使用された費用の割合を示す事業費比率は、2025年度は88.9%でした。フローレンスでは事業費比率90%前後を目安として事業運営しております。

2025年度 貸借対照表

科目	金額（単位：百万円）
I 資産の部	
1 流動資産	2,208
2 固定資産	260
資産合計	2,468
II 負債の部	
1 流動負債	400
2 固定負債	962
負債合計	1,363
III 正味財産の部	
正味財産合計	1,106
負債及び正味財産合計	2,468

2025年度 活動計算書

科目	金額（単位：百万円）
I 経常収益	
1. 受取寄付金	618
受取寄付金	618
指定正味財産からの振替額	0
2. 受取助成金等	1,727
受取助成金	17
受取補助金	1,683
指定正味財産からの振替額	26
3. 事業収益	1,343
4. その他収益	107
資産受贈益	89
その他	18
経常収益計	3,794
II 経常費用	
1. 事業費	3,254
2. 管理費	408
経常費用計	3,662
当期経常増減額	132
III 経常外収益	
経常外収益計	63
IV 経常外費用	
経常外費用計	177
法人税、住民税及び事業税	0
当期一般正味財産増加額	18
次期繰越正味財産合計額	1,106

開示情報の前提

NPOはあくまでも「社会課題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をしていくための手段です。しかしながら責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務健全性を度外視することはできません。フローレンスはそうした財務健全性を保つため、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。なお、会計処理および開示方法については、NPO会計基準に従っております。

※ 百万円以下は四捨五入しています。

MESSAGE

託された想いを形に

財務の視点から2025年度の活動報告

いつもご支援いただきありがとうございます。財務の視点で特に大きく動きがあった活動を報告いたします。

わたしたちの事業には、主にサービス収益で運営される病児保育事業や補助金で運営される保育園事業といった「事業型モデル」と、主に寄付や助成金で運営されるこども宅食事業といった「寄付型モデル」があります。収益のうち45%を占める補助金は、主に認可保育園や障害児保育の運営のために給付された補助金です。さらに収益のうち10%は訪問看護や児童発達支援といった社会保険サービス提供による社会保険収入です。

「事業型モデル」では、2005年に開始した訪問型の病児保育も20周年を迎え、お子さんのお預かり件数も15万件を達成しました。病児保育をさらに社会に根付かせるため、サービス提供エリアの拡大、「寄付によるひとり親支援プラン」の拡充（のべ約2,000人のお子さんの預かり実績）、医療的ケア児家庭への病児保育提供といった新しい挑戦も開始しています。

「寄付型モデル」では、2008年に開始した寄付プラン「ひとり親家庭サポート隊」でご支援いただける事業を拡大し、従来の訪問型病児保育事業「寄付によるひとり親支援プラン」に加え、新たに「食支援」「相談支援」「体験提供」も対象にしました。2024年に続き、主に肢体不自由のお子さんを対象にした「パラエスポーツ・フェスタ」を、多くの企業や団体の協賛や協力により開催することができました。当日は、肢体不自由児と家族25組、企業ボランティア6社51名、作業療法士ボランティア18名が参加し、障害の有無に関係なく「ごちゃまぜ」が「あたりまえ」の社会の実現に近づくことができました。

皆さんからのご支援や応援により、2025年度もこれらの新しい社会課題解決に取り組むことができました。あらためてお礼を申し上げます。

財務担当ディレクター

杉山 富美子